

ITを活用し、和音の美しさ・おもしろさを味わう学習

熊本大学教育学部附属小学校

やまさきひろたか
山崎浩隆

【実践の内容】

本実践は、コンピュータの動画編集ソフトを活用して、和音伴奏をつくるものである。

コンピュータを活用することで、子どもたちは演奏の技能がなくても自分の耳だけを頼りに和音伴奏をつくることができる。その際、和音伴奏をつくったという達成感を味わわせるとともに旋律と和音を何度も聴くことで和音に対する感覚を豊かにしようとするものである。

【論文内容の紹介】

1 研究のねらい

これまで和音の学習では、旋律に合わせて鍵盤楽器で和音を演奏させるような活動が多く、子どもたちは鍵盤を押さえることに精一杯で旋律も和音も聞こえないというのが実情であった。そこで、子どもたちみんなに和音のおもしろさを美しさを味わわせたいと考え、本実践を行った。

2 研究の実際

(1) 自分の和音伴奏をつくろう

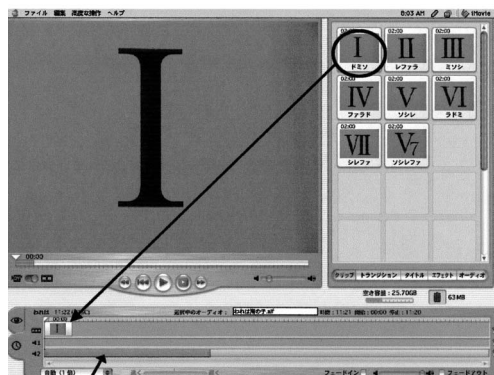
単旋律の歌唱教材「われは海の子」にコンピュータの動画編集ソフトを使い、一人一人の気に入った和音伴奏をつけさせる。

ビデオクリップには、和音記号の画面と画面に表示された和音が入っている。

和音は、I～ⅦそれにⅦ₇の8つである。サウンドトラックには「われは海の子」の1フレーズ目の旋律を入れておいた。

各クリップの和音は一小節の長さにそろえて入力しておく。旋律を聴きながら、クリップを重ねていくと和音伴奏ができていく。一

小節ごとに和音の変わる和音伴奏をつくるのである。クリップは自由に挿入、削除ができるので簡単に修正することができる。また、同じ和音を使いたいときは、コピー・ペーストしていくつでも増やすことができる。



「われは海の子」の旋律

パソコン室のコンピュータは20台。一斉に音が出ると自分の音に集中できないのでイヤホンを使うようにした。これで、音だけに集中し、旋律と和音の合う合わないを判断していくことができる。

(2) 全員の作品を鑑賞

和音伴奏ができたら、学級用のサーバーに全員の作品を集め、全員の作品を鑑賞する。旋律と和音伴奏が合っていると思う組み合わせを学習シートに書かせていった。鑑賞が進むにつれて共通していることが学習シートで見えるようになってくる。いつもIの和音で始まることやⅦ₇がⅦに進むことが多いことなど和声進行のきまりが見えるのである。

3 成果と今後の課題

技能がなくても感覚を豊かにし、自分の感覚を表現していくことがコンピュータを活用することで可能になった。また、教える側に音楽についての専門の知識がなくても、コンピュータを活用することで指導することができるのである。

今後は、このような教材を多数開発していくとともに意欲的に技能を高める指導法を工夫していくことが課題である。